

ノロウイルスにご用心



ノロウイルス感染症とは

ノロウイルスは感染性胃腸炎の主な病原体で、12月～2月が流行のピークです。

感染力が強く、100個程度のウイルスが体に入っただけで、急速な勢いで増殖し、ここ数年は各地の老人ホームや医療機関での集団感染による発症が多発しています。ノロウイルスは腸の中で増え、吐き気や激しい下痢を起こします。特効薬はなく、水分補給等の対症療法しかありません。原則3～4日で治まりますが、高齢者や小児は重症化する場合があります。

ノロウイルスQ&A

Q1 感染経路は？

A1 これまでは、主にウイルスが蓄積されたカキなどの二枚貝を食べた人が感染しています。しかしここ数年は貝以外を食べてうつる場合や、感染者や回復した人からうつる二次感染が増えています。感染者の便や嘔吐物の中のウイルスが世話をする人の手に付着し、食品などについて体内に取り込むことが多いと考えられています。

Q2 なぜ感染者が急増したのですか？

A2 原因は不明です。そもそも回復しても便の中にはウイルスが1～2週間程度排出され続けます。回復した人は、油断して手洗いが不十分になり、感染を拡大しているのではないかという予測もあります。ノロウイルスは下水処理でも死滅しにくく、河川や海に流れ、再び貝を通じて人に感染する連鎖がおきています。

Q3 感染防止で心がけることは？

A3 せっけんをあわ立てて、手をしっかり洗い、ウイルスを流し落とします。消毒用アルコールでは、死滅しにくいので要注意です。

また野菜や加熱後の食品などそのまま生で口にに入れる食材の場合、調理する人は素手で直接食品に触れずに使い捨てのゴム製手袋やはしを使うことが大切です。

Q4 感染者の嘔吐物などの処理のポイントは？

A4 『次亜塩素酸ナトリウム(漂白剤)液を0.02%に薄めて、ペーパータオル等に染み込ませ、嘔吐物を覆うこと。その後、袋などにまとめて燃えるゴミとして処分する』のが大切です。

処理者は使い捨てのゴム手袋やマスクを使い、処理後は汚物と一緒に袋に入れて処分しましょう。処理時には、感染者の便や嘔吐物には触れない意識が大切です。

台所用塩素系漂白剤(5%)を原液とした場合の作り方はコチラ →

